

「鬼の裔」誇り込め頂点

俳句甲子園最優秀賞 阿部なつみさん

3年 水沢高

第25回俳句甲子園（8月19

～21日、松山市）の個人部門最優秀賞に輝いた水沢高3年の阿部なつみさんは、作句への意欲を新たにす。鬼ときどげすまれながらも戦い続けた蝦夷の子孫としての誇りを込めた受賞句「草いきれ吸って私は鬼の裔」。高校から本格的に俳句と向き合い、「思いをやっと形にできた」と喜びをかみしめる。

逆境と強さ 思いを形に

実行委主催の大会は、地方予選などを経た18都道府県32

チームが出場。団体は文芸・短詩部の短詩部長の阿部さん率いるチームで臨んだが、予選敗退。「頼りない部長だったな。何も残せなかった」。挑戦を終え視界がぼやけた。

だが、喜びは最終日に待っていた。大会に出た1280人の最優秀賞表彰の瞬間、めくられた幕の下に、「鬼の裔

があった。「驚きとうれしさ」と、何と言っているかわからない。「ワアッ」と、それだけだった。人生で最も心が揺れた瞬間だった。

受賞句は、朝廷からの蔑視や逆境にあらがった祖先の蝦夷と、草いきれの力強さを絶妙に合わせた。いつか詠もうと思っていた題材で感慨もひとしおだ。

作句経験は小学生の頃から。高校入学と同時に「一生懸命になれるものが欲しい」と、同部で本格的に勉強を始めた。「本当に頼れる仲間」という部員たちと共に、鑑賞、題詠、句会などで研さんを積んできた。

同部コーチの鎌倉道彦さん（76）＝奥州市水沢真城＝は「耳にしたり目にした言葉をこつこつと自分のものにしてよ」と頑張っていた。よくやったな、という気持ち」と快挙を喜ぶ。

「ずっと詠みたかったものを形にできた」と愛用の俳句ノートを手喜びを語る阿部なつみさん

部活動は一区切りがいったが「俳句は続けていきたい」という阿部さん。「詠み始めた頃の初心を忘れないようにしたい」。夏の終わりに、にっこりと笑った。（戸館大明）

